



# 清新二中だより

## 本校教育目標

- 1 豊かな心で、互いに敬愛できる人（敬愛）
- 2 進んで学び、深く考える人（知性）
- 3 健康で明るく、自ら鍛える人（健康）
- 4 責任を重んじ、勤労を尊ぶ人（責任）
- 5 礼儀を重んじ、他とよい関係を築く人（礼節）

## 小さな優しさ 大きな優しさ

校長 白石 亨

毎年行っている3年生との校長面接を1月の中旬に終えることができた。

約100名からなる3年生との面接練習。多くの生徒が礼儀正しくあいさつし、背筋を伸ばし、上履きのつま先をきっちり揃えて、高校入試の模擬面接に臨んでくれた。頑張っ<sup>て</sup>敬語を使って、しっかりと受け答えもできていた。この面接のとき、ある女子生徒が言ってくれた言葉が、今でも心に残っている。

「将来どんな大人になりたいですか？」と質問すると、その女子生徒は「お母さんです」と答えてくれた。理由をたずねると、お母さんが作ってくれるお弁当がとても<sup>すてき</sup>素敵だとのこと。さぞや、豪華なお弁当でも作ってもらっているのかと思いきや、そうではなかった。どうやらお弁当箱にはおにぎり2つが入っていて、おにぎり<sup>と</sup>箱との間に少しの隙間ができる。そこに必ず漬け物を数種類入れてくれるらしい。女子生徒<sup>いわ</sup>曰く「こんな小さな隙間にも何か入れてあげようとする、お母さんの小さな優しさが好きなんです」とニコリと微笑んだ。

小さな優しさ・・・そう、ヒトは日常生活の中ではそうそう大きな優しさは発揮できない。でも、小さな優しさなら発揮できる。継続できる。お母さんの手作りのお弁当の繊細な優しさをしっかりと受け止め、「将来、自分もお母さんのような人になりたい」と述べてくれたことがとても嬉しく感じられた。

そして大きな優しさも・・・ある。

実は去年の一学期から気になっていたのだが、毎朝大きなカバンを二つ持って登校する生徒がいた。背中には黒いリュックをかつぎ、お腹側にはピンクのリュックを抱えて登校する女子生徒。3年生のSさんだった。当初はたまたま荷物が多くて二つのリュックを使って登校しているのかと思いきや、そうではなかった。

担任の先生から話を聞くと、Sさんは友達のカバンも持って登校しているのだという。Sさんの友達にはMさんがいるが、身体的なハンデがあり、重い荷物を持つては歩くことができない。そこでSさんはMさんのピンクのリュックを持って一緒に登校しているのだという。昨今、カバンが重すぎて、その軽量化が問われているが、Sさんは二人分も重たいリュックを持って黙々と登校していたのだ。とてもすごい優しさだと思う。

Sさん本人からも話を聴くことができた。友達<sup>の</sup>Mさんとは小学校の頃からとても仲がよいとのこと。臨海町の隣り合わせのマンションに住んでいることから、毎朝、下で待ち合わせをして一緒に登校しているのだという。さすがに雨の日は、Mさんはお母さんの車で送迎してもらっているが、晴れた日は、ほぼ毎日、SさんはMさんのリュックも持って登校している。小学校高学年から始まり、中1と中3の2年間も続いている。

「二人分のリュック、とても重くて大変だね」と聴くと、Sさんは少々戸惑いの表情を浮かべ「・・・でも、私もMさんに助けられているんです」と答えた。どうやら、Sさん自身も様々な事情があり、一時期学校に登校することができず、休みがちになったという。そのとき、いち早く気づいて心配して相談にのってくれたのがMさんだった。Mさんが自分を励まして勇気付けてくれたのだという。Mさんがいたからこそ、今は学校に登校できているのだと語ってくれた。

勇気づけてくれる友達がいる。人知れず重いカバンを持つてくれる友達がいる。

お互いが気遣いながら助け合っている。特にSさんはMさんに対して特別なことをしているとは思っていない。困っている友達がいるから手を差し伸べる。ただそれだけの事と思っている・・・本当に自然体なのだ。

「小さな優しさ」「大きな優しさ」と区別してしまっ<sup>た</sup>が、本来、優しさには小さいも大きいもないのかも知れない。困っている人や、心を寄せている人がいれば、相手のことを思いやり、無償で自分ができ<sup>る</sup>ことを純粹に行うことが優しさなのだと思う。笑顔で一緒に登校するSさんとMさんを見ていると、そう思う。

いろいろな優しさがみられる清新第二中学校。本校の校長であることがとても誇らしく思えてくる。